



第26回全国都市緑化おかやまフェア会場計画

株式会社ヘッズ 林 広一・杉浦 守・松本将司・加藤 修

おかやまフェアの会場計画においては、来場者の満足度を高め、リピーターを増加させるために、さまざまな空間づくりのアイデアを組み込むことを試みている。入り組んだゾーニングと動線計画、遠近感を要所で演出するランドスケープ技法は狭小な会場を現実以上に広く感じさせ、また来場者の好奇心を刺激する花と緑と装置が作り出す空間の仕掛けは来場者の満足度を高めるとともに滞在時間を伸ばす効果を果たし、日々変化成長していく植物は見飽きることの無い期待感を常に来場者に与えるものとなった。

計画では、会場を大きく4つのゾーンに分類し、ゾーンのテーマを表現する基盤景観づくりにより、会場を巡る中で風景の移り変わりを楽しめる演出を行った。自然とのふれあいを大切にしたい新しい時代の「エコライフ」を提案する《新世紀緑のまち》ゾーン、花や緑にあふれる豊かな街並みと生活を楽しみ・体験できる《花暮らしのまち》ゾーン、《キッズガーデン》ゾーン、「おかやま」ならではの特徴ある庭づくりを提案

する《自然の恵みガーデン》ゾーンである。

各ゾーンの特徴を活かし、さらに魅力的にするために、会場のランドスケープ計画においては、以下の点に留意して計画を行った。

- ・会場が一望できない空間構成と大小空間の組合せによるシーン展開を図る。
- ・見え隠れ、生けどり等の庭園にみられる空間演出手法を駆使し、観覧者の期待感を高める。
- ・狭小な会場に対応し、空間のリバーシブル利用を図る。
- ・植栽演出においては、会期を通じた時系列演出の工夫を図る。

「第26回全国都市緑化おかやまフェア」は、全会場で91.9万人、メイン会場では38.6万人の来場者を迎え66日間の会期を終えた。公式記録のアンケート結果によると、来場者の1/3がリピーターであり、滞在時間は2時間以上が59.0%を占めていた。



都市の緑化や花と緑に関わる取組みをモチーフにした政令指定都市出展 アーバンフォレスト：緑の壁〔花暮らしのまち〕

作品概要

作品名：第26回全国都市緑化おかやまフェア会場計画
 対象地：岡山市東区西大寺南1（カネボウ綿糸工場跡地）
 発注者：第26回全国都市緑化おかやまフェア実行委員会
 事業目的：「第26回全国都市緑化おかやまフェア」について、会場設計、屋外展示出展および植物調達管理実施計画の策定を目的とする。
 事業体制：屋外展示出展および植物調達実施計画を株式会社グリーンダイナミクスと協働しつつ、株式会社ヘッズは会場設計を中心に、実行委員会事務局のパートナーとして、他業務との調整や事業進行管理にも積極的に参加した。
 協働者等：株式会社グリーンダイナミクス
 事業期間：平成19年6月18日～平成20年3月31日
 （フェア期間：平成21年3月20日～平成21年5月24日）
 事業規模：約8ha

作品評

本作品は、全国都市緑化おかやまフェアの会場計画および屋外展示出展・植物調達管理の実施計画である。会場計画、植物調達計画など全般的にきめ細やかな実施計画を策定し、フェアの開催を円滑に進めるにふさわしい内容となっている。

会場計画では、岡山の地域的な特色を演出するため、各ゾーンや広場のネーミングをはじめ、展示の舞台づくりに工夫がみられた。また、静と動、主と脇の空間構成や狭小な会場を広く見せるため、シークエンスの変化と連続性を上手く組み合わせた動線設定など、会場の特性を十分把握した空間演出力は高く評価される。

一方、全体として網羅的で無難なテーマ設定となっており、とくに今の時代に問題提起をするような鋭い企画や新たな試みに乏しい点が惜まれる。

コンテスト実施計画・植物調達計画については、いずれも細かな点にまで配慮した内容となっており、イメージ図等を効果的に使用し、完成イメージを視覚的に想定できるものとなっている。



自然とのふれあいを大切にした新しい時代の「エコライフ」を提案する環境をテーマにし、企業・団体などが「環の杜」「スロウライフの杜」といったテーマを持った自然空間の中で個性溢れるガーデンを提案する《新世紀緑のまち》ゾーン



花や緑にあふれる豊かな街並みと生活を楽しみ・体験できるゾーン。企業・団体などが「人々の交流」「くつろぎ」など、「花と緑を身近に感じられる都市やまちの中のガーデン」を提案する《花暮らしのまち》ゾーン



一面に広がる麦畑の中にミステリーサークルのように遊べる仕掛けや高校・大学などによる出展の庭などが配置される《キッズガーデン》ゾーン、果樹や果実に焦点をあわせ、「おかやま」ならではの特徴ある庭づくりを提案する《自然の恵みガーデン》ゾーン